

LPガスCP速報(2024年11月積)

1. 11月積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン **635** ^{ドル} (前月比+10 ^{ドル})

ブタン **630** ^{ドル} (前月比+10 ^{ドル})

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、中東市場は、OPECプラスの減産継続で産ガス国からの出荷は絞られ、スポット販売は限定的。中国経済は、景気刺激策も空振り、8月に低下したPDHの稼働率は回復に至らず、成約も散見される程度、国慶節の連休で前半は閑散とした市場となった。ベトナム石化、インドネシアはブタン付カーゴを入札、冬季の需要増期待が下支えした。極東CFR市況は、米国市況の急騰を受け第1週にプロパン710 ^{ドル}、ブタン700 ^{ドル}まで急反騰したが、第2週以降は軟化、第4週にはプロパン660 ^{ドル}、ブタン670 ^{ドル}に下げている。

米国市場は、プロパンの供給は潤沢、需要は堅調も在庫は積み上がっている。輸出はNederland基地のメンテナンス、その後のコンプレッサー故障で積み荷が遅れたが回復、プロパン在庫水準は5年平均レンジを上抜けている(グラフ②参照)。モンベルビュープロパンスポット価格は反騰、月間平均で前月比65 ^{ドル}上昇の405 ^{ドル}/トニック(グラフ①参照)、原油市況の上昇と在庫の一時的な減少も影響した。

フレート市況は第1週に急反騰、米国～極東市場は90 ^{ドル}どころから130 ^{ドル}まで上昇した。成約ラッシュで余剰船舶が一気に捌け、タイト化したため、冬場の需要増見込みと北米市況の急騰を受けて、中東市場も30 ^{ドル}上げて70ドルに達した。第2週以降は傭船需要が一服、船舶需給が緩和し、市況も軟化した。サイクロンの影響もありインド需要の回復が下支えした。

ナフサ市況は反騰、月間平均は前月比28 ^{ドル}上昇の673 ^{ドル}どころ。原油市況の上昇を受けて一時713 ^{ドル}まで上げたが、ナフサ高でエチレンクラッカーの需要は低下、下旬には一時650 ^{ドル}を割り込んだ。ナフサ高ブタン安による石化需要増も一服。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は反発、月間平均で前月比30 ^{ドル}上昇の480 ^{ドル}どころ、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)も反騰、前月比30 ^{ドル}上昇の665 ^{ドル}どころ、原油市況の上げを受けた。ガスオイル・C重油との格差は185 ^{ドル}で変わらず。

11月CPは前年同月比プロパン25 ^{ドル}、ブタン10 ^{ドル}のそれぞれ上昇。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン、ブタン1ポイント上昇、前年同月比ではプロパン21、ブタン20ポイント高い。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート(中東-日本)	70	70	60	50	62.5
CP先物指標:P	640	630	620	625	629
CP先物指標:B	630	620	610	615	619

② 原油市況等

10月の原油市況は70 ^{ドル}割れでスタート、7日にWTIは77 ^{ドル}、ブレント原油で80 ^{ドル}を突破したが、最終週はWTIが67 ^{ドル}台まで急落した。市況を大きく揺り動かしたのは、イスラエルの対イラン報復攻撃を巡るもの。イランの核施設及び石油施設を攻撃目標から排除しないイスラエルの強硬姿勢に、イランとの全面戦争、ホルムズ海峡封鎖のリスクが市況を押し上げたが、バイデン政権の説得もあり報復攻撃は限定的なものになった。ただ、ガザ地区、ヒズボラとの戦闘は激化、停戦合意の道筋は見えず、中東地政学リスクは燻ったまま。需給を巡っては、OPEC非加盟国の増産、OPECプラスの自主減産縮小計画、中国需要の低迷で、2025年早期の供給超過見通しが示され、市況下押しの要因となった。米国原油在庫は増加傾向も5年平均レンジの最下方の低水準、先物市場では、プロンプトスプレッド(期近2限月)の逆ざやを上旬に0.7 ^{ドル}まで拡大したが、下旬には0.4 ^{ドル}程度まで縮小、需給タイト感が緩和してきた。

○10月積みアラビアン・ライト(10月1~30日までの想定)は76.25 ^{ドル}(前月比+0.75 ^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン625.17 ^{ドル}/トニック ブタン616.60 ^{ドル}/トニック

AL比 プロパン101.57% ブタン102.17%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

2. 2024年11月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	TTS	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
10月月間	150.69	98,700	103,100	+9,100	+7,400

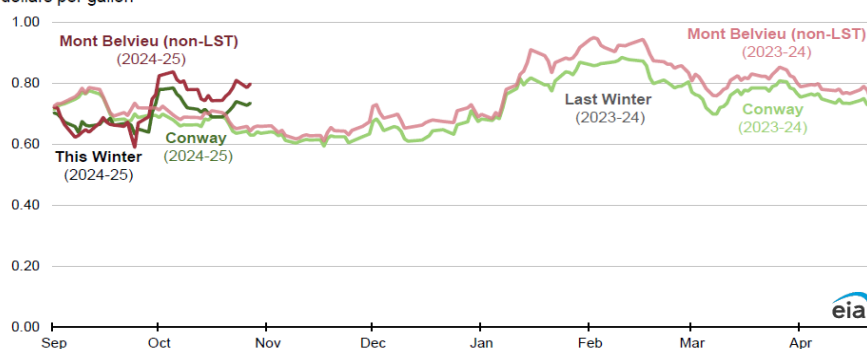
* TTS平均等について、各社の適用為替レートが昨年4月仕切改定から月間平均に統一された。

上記は10月1～31日までのTTS平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれ、各社で異なる。

なお、上記MBは10月29日までの価格を基にEINで試算（404ドル/トン）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はWebサイトを参照。

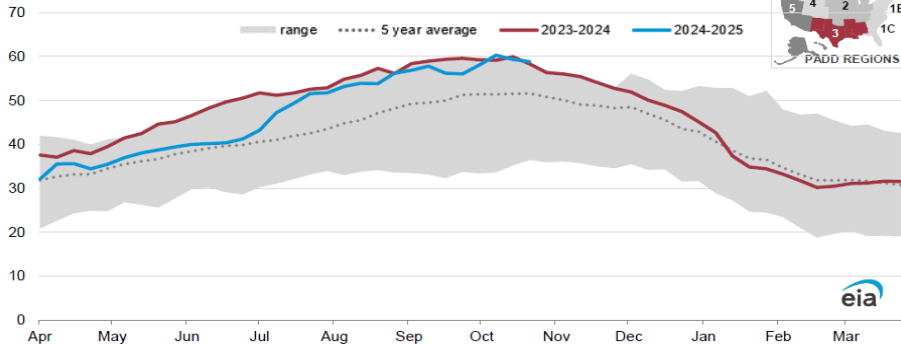
① 米国プロパンスポット価格推移

Propane spot prices (Conway, KS and Mont Belvieu, TX)
dollars per gallon



② 米メキシコ湾岸プロパン在庫推移

PADD 3 propane inventories
million barrels



③ 米プロパン輸出货量推移

4-Week Avg U.S. Exports of Propane

↓ DOWNLOAD

Thousand Barrels per Day



出典：EIA